



人づくりは環境づくりから

「モノづくりは人づくり」とよく言われる。モノをつくるのは人であるから、いいモノをつくるにはそれなりの能力を持った人が必要であるのは当然のことである。人以外の動物も植物も機械もモノをつくる。その場合でも、必要な能力や性能を持っていないければ、決していいモノはつukれない。モノには形のあるもの、形のないもの、思想信条やそれを具現化する芸術作品、工業・農林水産業・サービス業などの製品等々、多種多様のものが含まれる。どんなものであれ、いいものは一朝一夕には生まれない。いいものに至るまでには長い年月と地道な修業・試行錯誤・調査・研究などが必要であり、関係する人にはそれをやり遂げる強い精神力が要求される。

最近子どもの理科離れが心配されている。この理科離れは、いろいろな現象を彼らには難解な数学で説明しようとするところに原因があり、さらにこの難解な数学を理解できない、あるいは理解しようと努力できない子どもの精神力の弱さに起因する。この理科離れは日本の科学技術の後れをもたらし、その結果として世界市場における日本製工業製品の地位の低下をもたらす。人づくりは幼い子どものときから始めなければならない。

「人づくりは環境づくり」だと言いたい。環境が人をつくると言っても過言ではないほどに、良くも悪くも人は自らに関係する周囲の人々も含めた環境に大きく影響され、人づくりされる。その最初の事例として、ベンチャー（以後VTと略す）企業を取り上げる。

第二次大戦後の米国において、軍需から民需への転換を図る目的から、雨後のたけのこのようにVT企業が次から次へと出現した。当時起業され今も生き残っている大企業は少なく、HPくらいかもしれ

ない。その後も現れては消え、現れては消えていったVT企業は数知れないが、成功した企業も多い。前出のHPのほかに、Microsoft, Fairchild, Intel, Apple, Oracle, Yahoo, Google, そして最近のFacebookなど今をときめく大企業がある。米国ではベンチャーキャピタル（以後VTCと略す）が資金を出してくれるので、起業者は一文も出す必要がない。したがって、金のない貧乏な若者でも、優れたアイデアさえあればだれでも簡単に起業できる。失敗しても自らは一文も損しないから気楽なものである。失敗の回数が多いほど経験豊富だとしてVTCから信用され、さらに資金を出してくれる。うらやましい限りである。米国では理工系出身の優秀な若者は、大企業に就職するのは少数派で、多くはVT起業する。こうしてBill Gates, Steve Jobs, そして最近ではMark Zuckerbergらの若きVT起業者が生まれ、そして大きく成長していく。

日本で成功したVT企業の代表格と言えば、ソフトバンクと楽天が双璧である。両社の社長とも若くして米国に渡り、その地で自由に起業できる環境に慣れ、帰国してごく少人数で起業し成功した。和を尊重する日本では、出る杭は必ず打たれる。若者が成功して大金儲けしそうになると、寄ってたかってダメにする。前出の両社の社長はこのような逆境には負けなかった。また、日本には米国のようなVTCはなく、あるのは損得勘定高い大手銀行系のVTCだけである。日本では理工系出身の優秀な若者の多くは大企業や官公庁に就職し、VT起業する若者はまれである。多数の若きVT起業者が生まれ、大きく成長する環境や土壌は残念ながら日本にはない。

以上のVT関連の話題の多くの出所は、青色発光

ダイオードの発明などでよく知られている、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の中村修二教授である。中村教授もVT企業を数社持っている。近年「内向き志向」が強くなってきたと言われる日本の若者は積極的に米国に行き、独創性や多様性を尊重する環境に慣れ親しみ、帰国してVT起業してほしいと中村教授も期待している。

環境が人をつくる次の事例として、野田首相の出身の松下政経塾を取り上げる。この政経塾、入塾に諸経費は不要で、「志だけを持ってきてください!」と言う。「政治家になるんだ!」との高い志を持って入塾してきた青年たちが、4年間寝食を共にし、昼夜を分かたず仲間たちと天下国家を論じ、切磋琢磨し日々研鑽を積む。意志薄弱な青年は去っていく。このような環境から、良くも悪くも精神力の強い人間がつくられる。野田首相をはじめ、国会議員・地方首長・地方議員などの政治家を中心に、企業経営

者・大学教員・マスコミ関係者など、多くの分野に多数の著名な人材を輩出している。

終わりに、厚労省所管の学校の学生は、文科省所管の学校の学生に比較して、最初から目的意識がはっきりしているためか、意欲的で優秀な学生が多い。そんな学生を生かすも殺すも、教員や学生も含めた教育環境次第である。強将の下に弱卒がいないように、優れた教員から優秀な学生が生まれる。また、朱に交われば赤くなるように、周囲の多くの学生がみな優秀であれば、自らも発奮して優秀ならざるを得なくなる。さらに、学生が優秀になれば、教員も優秀ならざるを得なくなる。

こうして環境によって人がつくられる。厚労省所管の学校の教育環境がより良く充実し、より多くの優れた人材が育成されることを心から期待している。

よこやま まさあき

略歴

1965年 東京工業大学理工学部制御工学科
卒業
1971年 東京工業大学博士課程単位取得退学
1973年 工学博士（東京工業大学）
1980年 東京工業大学大学院助教授

1991年 東京工業大学大学院教授
2006年 鶴岡工業高等専門学校長、東京工業大学名誉教授
2011年 山形県立産業技術短期大学校長、
現在に至る